

開催日時 12 月 19 日 ( 土 ) 会場 親里ホッケー場 天候 晴れ

箕島クラブ、天理大学が決勝進出を決めた  
＜27年ぶり3度目の対戦＞

＜準決勝戦＞

箕島クラブ

1

$\begin{pmatrix} 0 - 1 \\ 0 - 0 \\ 0 - 0 \\ 1 - 0 \end{pmatrix}$

1

名古屋フラーテル

4

SO

3

＜準決勝戦＞

天理大学

6

$\begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 2 - 0 \\ 2 - 0 \\ 1 - 1 \end{pmatrix}$

1

山梨学院大学

< 準決勝戦 >

箕島クラブ	1	$\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -0 \\ 0 & -0 \\ 1 & -0 \end{pmatrix}$	1	名古屋フラーテル
	4	SO	3	
	1	PC	1	
	1	シュート	7	

得点	箕島→52分田中健
	名古屋→6分小野
戦評	<p>箕島のセンターパスにより試合が開始された。第1Q5分、名古屋MF小野がサークル内でパスを受けると、ヒットシュートを冷静にゴール左下に決め先制する。直後、箕島がPCを獲得するが得点に繋げる事が出来ず、名古屋リードで第1Qを終えた。ペースを掴んだ名古屋は第2Q開始早々、PCを連続で獲得するがGK清水の守りを崩す事が出来ず得点には繋がらない。その後も箕島陣内へ攻め続ける名古屋は時折見せる、箕島のカウンター攻撃をしのぎ、第2Qを折り返す。第3Qも名古屋ペースで試合が展開、1-0のまま。第4Q、何とか追いつきたい箕島はロングボールを名古屋サークルに入れ込み名古屋DFのミスを誘う。そして、52分に箕島DF佐々木のロングパスをエースFW田中健がタッチシュートで決め同点に追いつく。その後も、名古屋は果敢に攻め込むが箕島GK清水の好セーブもあり、得点には至らず1-1同点でシュートアウトを迎える。シュートアウトは箕島が4-3で名古屋を下す大金星で、27年ぶり3度目の決勝進出を決めた。</p>

テクニカルオフィサー	馬場治男		中野典子
アンパイア	児玉茂樹	ジャッジ	喜多正司
	渡邊道彦		樋口修

< 準決勝戦 >

天理大学	6	$\begin{pmatrix} 1 & -0 \\ 2 & -0 \\ 2 & -0 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$	1	山梨学院大学
	5	PC	3	
	12	シュート	7	

得点	天理→12分石川、22分石川、24分山田、36分黒川、43分黒川、59分田中
	山梨→54分伊藤
戦評	<p>天理大のセンターパスにより試合が開始された。第1Q5分、天理大はPCを獲得するが山梨GK藤原の好セーブに阻まれ先制点には至らない。しかし、天理大は12分、PCのリバウンドをFW石川が落ち着いてリバーススイープでゴール左下に決め1-0とし第1Qを終える。第2Q、21分に天理大はPCを獲得すると、GKのリバウンドボールをまたもFW石川がダイレクトスイープシュートで決め2-0とする。直後、天理大は再びPCを獲得。DF山田が豪快にゴール左上に決め追加点を挙げ3-0とし、第2Qを折り返す。試合の主導権を握った天理大は、第3Q、36分PCから、43分には山梨DFの反則を誘い、連続でPSを獲得。それをDFの黒川(主将)が連続で決め、5-0と勝利を大きく手繰りよせた。何とか意地を見せたいインカレチャンピオンの山梨は、第4Q54分に、PCをDF伊藤がゴール左中段にフリックシュートを決めるが、そこまで、直後の59分には天理大のMF田中が1人で独走で、サークルインし、落ち着いてプッシュシュートを決め6-1。天理大は圧勝で2年ぶり33度目決勝進出を決めた。</p>

テクニカルオフィサー	今庄充世		中野典子
アンパイア	成田健一	ジャッジ	坂口あすみ
	高橋英行		樋口修